

## 「ふえるわかめちゃん®」のリケンがモズクもふやす？ モズクの初期成長に関する共同研究を推進

理研食品株式会社\*の佐藤陽一、琉球大学熱帯生物圏研究センターの伊藤通浩助教、新里尚也准教授、同理学部田中厚子助教、知念漁業協同組合事業課の林顯尚加工販売主任らの研究チームは、オキナワモズク（以下、モズク）の初期成長に関する研究において、沖縄県の「令和5年度 沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業（大学等共同研究推進）委託業務」に申請し、採択されました（実施主体は琉球大学、他は琉球大学から委託）。期間は2023年7月から2025年2月末までです。

研究チームはこの機会を活用してモズク養殖における大きな課題を解決し、持続可能なモズクの生産に貢献することを目指します。

\*理研食品株式会社は、理研ビタミン株式会社の子会社で、「ふえるわかめちゃん」「わかめスープ」などの製造や、海藻養殖に関する研究を行っています。

### ■ 研究の概要

モズクは、健康志向から需要が年々高まっています。その一方で、モズクの生産量は変動が大きく、原料価格も不安定な状況が続いています。

生産量変動する原因のひとつに「モズクの初期成長の成功率」が挙げられます。網に種付けしたモズクの初期成長（藻体長5mmまでの成長）の成功率は6~7割程度にとどまっており、その成否の原因は分かっていません。漁業者は一定の割合で失敗することを織り込み、労働量を増やして対応しているのが現状です。



沖縄県本部町のオキナワモズク養殖

理研食品はワカメの種苗研究による知見を活かしたモズク養殖の課題解決を目的として、2018年から琉球大学と共同研究を行っています。これまでの研究から、モズクの成長や収穫は種苗や生育初期の良し悪しが強く影響することや、特定の環境条件の下でモズクの初期成長が促進されることが明らかになりつつあります。

今回採択された共同研究では、多くの微生物株の中から、モズクの成長促進に有用な機能を持つ株を選抜し、さまざまな条件でモズクに接種・定着させることで、初期成長の促進効果が得られる株と、その使用条件を見出します。

最終的には試験用の網枠上でモズクの初期成長の成功率を9割以上に引き上げることを目標としており、安定的・効率的で持続可能なモズク生産の実現に貢献することを目指します。

理研ビタミングループは、ワカメにとどまらない海藻の種苗研究を通じて、持続可能な海藻養殖に貢献していきます。

お問い合わせ先  
理研ビタミン株式会社 経営企画部 広報・IR室  
TEL : 03-5362-1315